

最上の子どもたちのために

未来へ

紡ぐ

- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和6年 6月28日
- ◆ 最上教育事務所指導課

これまで発行していた研修通信「まなび通信」と生徒指導通信「つむぐ」をリニューアルした形で指導課通信「未来へ紡ぐ」を発行いたします。HPにも掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

令和6年度 最上地区

いじめ不登校未然防止協議会

令和6年5月9日(木)

子どものSOSの出し方・受け止め方 ～生徒と教師の心を守るために～

メンタルヘルス

自殺予防は「死にたい」人への対応だけではなく「困りごとの対応」から

自殺

こころの病

ストレス

生きづらさ

「親と喧嘩した・叱られた」「勉強がついていけない」「経済的に希望の進路に進めない」など日頃の悩みへの対応が自殺予防になる

全ての小・中学校から1名以上の先生と各市町村教育委員会のご担当から出席いただきました。講師の高橋聡美先生からは自殺防止のために「子どもたちのSOSの出し方」「大人のSOSの受け止め方」など大切なこととお話いただきました。

SOSの出し方教育で伝えていること

- 身体の傷は見える 心の傷は言わないと見えない
- 身体の傷は手当てをすると良くなる
- 小さな傷ほど治りも早い
- 心の傷も同じ。

あきらめないで3人目までの大人に伝えて

どのようにしてSOSを受け止めるか？

- ジャッジしない
- アドバイスしない
- ありのままに受け止める
- 勝手に想像しない(決めつけない)
- 相手の情景をみさせてもらう

↓
受容傾聴

※講演内容から一部抜粋

事例を通して、困っている子どものためにどのような関わりができるか、意見交換を行いました。

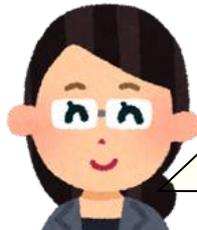


高橋 聡美研究室
代表 高橋 聡美 氏

参加者の感想



受容傾聴や困り感を聴くコミュニケーションスキルを学校で共有しなければならないと思いました。演習では困っている子どもを助けてあげたいと思えば思うほど、周りにSOSを出し、連携することの必要性を感じました。



SOSの出し方が苦手な子どもは確かに多いと感じました。多くの子どもがSOSを出せば不登校も未然に防げると感じました。受け止める側も「オウム返し」「詳しく尋ねる」ことが大切だと分かりました。

令和6年度第2回最上地区いじめ不登校未然防止協議会の予定について

○日時：令和6年9月10日(火) 14:00～ ○会場：最上総合支庁 講堂

○テーマ：これからの不登校支援について ○講師：県教育センター 教育相談課

令和6年度 幼保小接続推進のための研修

子どもの育ちと学びをつなぐ研修会

令和6年5月1日(水)

最上管内の幼稚園・認定こども園をはじめ、小・中学校等、教育委員会学習指導・幼児教育担当者から約50名の方々に参加いただき、日々の指導改善や幼児教育の充実について、活発な協議が行われました。

全体講演 「幼保小ではぐくむ資質・能力の円滑な接続について」

目指す資質・能力に沿って子どもの姿を把握することや、子どもの姿を踏まえた計画と一人ひとりの資質・能力を育てるためのマネジメントの大切さ等、幼保小連携の重要な視点をご示唆いただきました。また、演習では映像から「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に沿って資質・能力を見取り、校種の異なるメンバーで協議することを通して、多様な見方に気づいたり、子どもの資質・能力が発揮されている姿を共有したりすることができました。参加者のみなさんは幼保小のつながりを再確認し、より良い接続の推進へつながる指針を得ることができたようです。



山形大学教職大学院
教授 野口 徹 氏

参加者の感想

- ・ 普段の何気ない子どもたちとの生活や遊びの中に、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿があることを改めて考えることができました。日々の姿からしっかりと子どもの育ちを見つめていこうと思いました。
- ・ 一人一人の育ちを見る気持ちを持っていないことを課題の多い子どもたちのせいにしてしまいがちな毎日ですが、野口先生のお話を聞いて、まずは一人の10の姿を意識していこうと思いました。



令和6年度 不登校児童生徒のための

最上地区自立支援ネットワーク構築会議

令和6年5月17日(金)

最上管内の不登校支援の民間団体関係者、小・中学校の代表、教育委員会生徒指導担当者から参加いただき、不登校の状況や民間団体の活動内容などの情報交換を行い、今後の連携について協議しました。



話題になったこと

- ・ 不登校児童生徒の学校以外の居場所づくり
- ・ 校内での別室対応のコーディネート
- ・ 担任の先生とどのように繋がるか
- ・ 家庭と繋がるきっかけ作りの難しさ

参加者の感想

- ・ 各市町村の状況を知ることができました。そして、それぞれに解決のためにいろんな工夫がされていることを聞くことができ励まされました。民間としてできることには限りがあるのですが、少しでも役に立てたらいいなと気持ちを新たにしました。
- ・ 行政は知った情報をどのように整理していくのか、どのようにつなげるのかという点で重要な役割を持っていることを自覚しました。その上で学校とどのようにつながっていくかが課題であると感じました。
- ・ 少しずつですが、民間団体とつながる家庭が増えてきているのは成果だと思えます。